

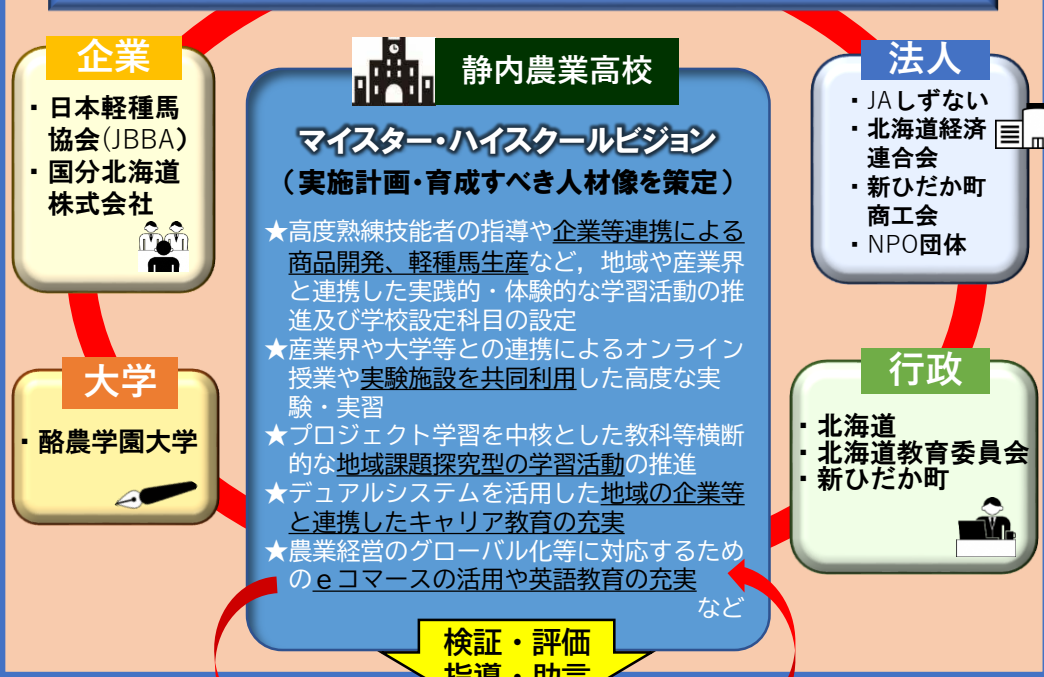
地域発次世代イノベーター人材の育成～持続可能な日高農業の創り手～



事業の目標

軽種馬、野菜生産や食品加工など、特色ある日高の農産業の実践をとおして、地域産業の課題解決の一助を担うとともに、フロンティアスピリッツのもとに地域と産業の持続的発展をけん引するイノベーターとしてのマイスター育成を図る。

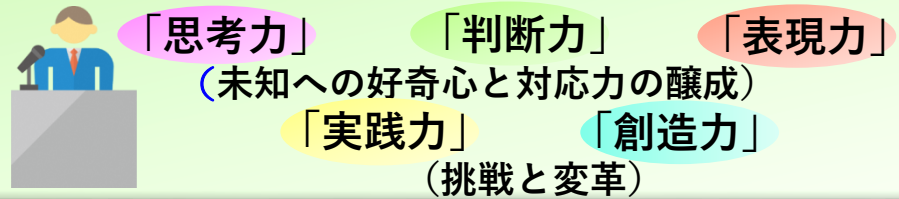
マイスター・ハイスクール運営委員会



静内農業高校

(教育目標) 自ら考え正しく判断できる力を養い、たくましく生涯を生きる生徒を育てる

地域と一体化した3年間の学びで目指す5つの資質・能力



卒業後の姿(専門性を生かしたマイスターを育成)

- ◆地域の担い手、高度な技術者、六次化を推進する人材、地域創生の担い手 (獣医・装蹄師・コンサイナー・GAP指導員) ※奨学金制度の導入
- ◆専門技術で新しいビジネスを提案できるイノベーター
- ◆地域資源を商品化できる人材 ◆世界で活躍するグローバル人材

静農版課題解決学習と3カ年計画

	資質・能力の育成	主な学習活動
3年次 「進化」 (evolution)	○表現力、実践力 ○自己認識 ○社会性 ○回復力と対処能力	○デュアル派遣実習 ○ICT研修 ○GAP・HACCP認証審査 ○大学等での実験・実習 ○海外との交流事業 ○キャリア・パスポートの活用
2年次 「挑戦」 (challenge)	○情報収集能力 ○創造力 ○思考力、判断力 ○忍耐力	○インターンシップ ○ICT研修 ○GAP・HACCP認証審査 ○商品開発・販売の基礎研究 ○キャリア・パスポートの活用
1年次 「発見」 (discover)	○課題発見能力 ○コミュニケーション力 ○意欲 ○自制心	○企業等の施設・設備の利用 ○講演及び実践的研修 ○ICT研修 ○GAP・HACCP研修 ○キャリア・パスポートの活用

マイスター・ハイスクール事業推進委員会

(マイスター・ハイスクールCEO、静内農業高校ほか)

- ★マイスター・ハイスクールビジョンに基づいた取組や最先端の職業人材育成システムの構築、育成すべき人材像の育成に必要な学科や年限の改変も含めた教育課程の刷新の方向性を検討、決定
- ★各事業の計画・実践・まとめ・検証・評価・改善 (PDCAサイクルの構築)

(委員会の構成)

CEO: 全体統括、校長・教頭: 渉外・調整、事務長: 会計、農場部: 企画運営・庶務、教務部: カリキュラム及び時間割調整、進路指導部: 外部講師講演(1年次進路に関わる部分)及び資格取得、普通科主任: 普通教科との授業連携及び調整、英語科主任: 資格取得(英検)、情報担当: 情報発信

地域発次世代イノベーター人材の育成～持続可能な日高農業の創り手～

学科やコースの特性に応じて、高度熟練技能者による指導等を通して、専門的な知識や技能を身に付けるとともに、1年目の学習活動で発見した地域産業の課題を合理的かつ創造的に解決する力を養う。

マイスター・ハイスクールビジョン 静内農業高校における人材育成計画の概要

- ア 高度熟練技能者による指導や企業等と連携した商品開発や軽種馬生産など、地域や産業界と連携した実践的・体験的な学習活動の推進及び学校設定科目の設定
- イ プロジェクト学習を中核とした教科等横断的な地域課題探究型の学習活動の推進
- ウ デュアルシステムを活用した地域の企業等と連携したキャリア教育の充実
- エ 地域や小・中学校と連携した教育活動など、異年齢集団による活動の推進
- オ オンライン授業や実験施設を利用した高度な実験・実習など大学等との連携・協働
- カ 農業経営のグローバル化等に対応するためのeコマースの活用や英語教育の充実

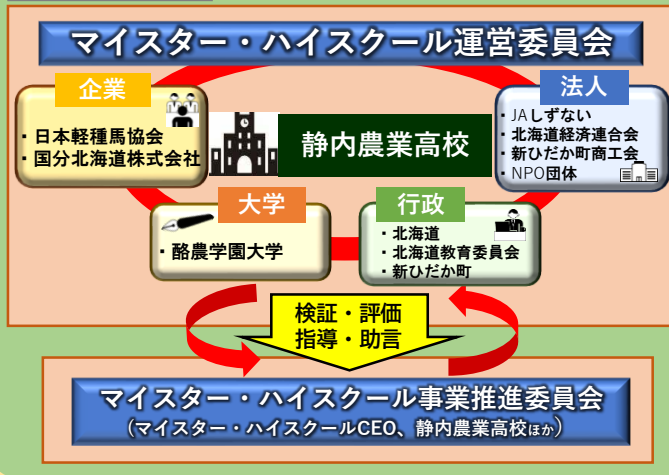
2年目の事業内容

学科やコースの特性に応じて、高度熟練技能者による指導等をととして専門的な知識や技能を身に付けるとともに、プロジェクト学習やデュアル派遣実習に重点を置いて、生徒の資質向上に取り組んだ。

卒業後の姿(専門性を生かしたマイスターを育成)

- ◎地域の担い手、高度な技術者、6次産業化を推進する人材、地域創生の担い手(獣医師・装蹄師・コンサイナー・GAP指導員)
- ◎専門技術で新しいビジネスを提案できるイノベーター
- ◎地域資源を商品化できる人材
- ◎世界で活躍するグローバル人材

実施体制



取組状況

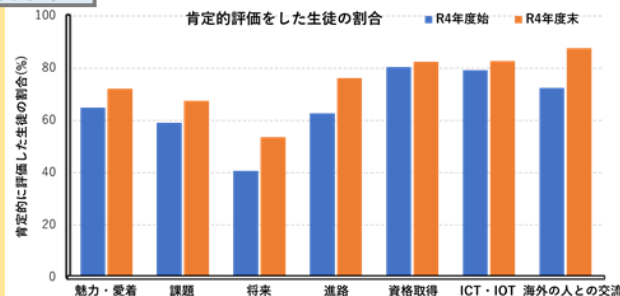
○プロジェクト発表

- 新ひだか町の地域資源や特産品を研究し、地域の事業者と共に商品を開発できた。(食品科学科2年生)
- ホースセラピーの効果を心拍数や唾液等を用いて科学的に分析することができた。(生産科学科2年生)
- 3Dプリンターを活用して、子どもでも安全に乗馬ができる籠を作り上げることができた。(生産科学科3年生)

○デュアル派遣実習

- 長期間の実習をとおして、日常の適切な管理がいかに大切であるかを学ぶことができた。(藤沢牧場)
- 牛の削蹄の準備や片付け、牛追い、削蹄記録の記帳について実践的に学ぶことができた。(合同会社ティエイ)
- お菓子の製造過程について学び、消費者の手元に届くまでの仕事を体験することができた。(石屋製菓株式会社)

成果



産業界等と連携を強化した取組により、すべての項目で好ましい生徒の変容を確認できた。2名の生徒が将来の新規就農を目指して進学、就職するなど将来の農業振興につながる生徒を輩出できた。

課題

生徒が地域の中で学ぶことが郷土愛の醸成や自己有用感の高め、地域農業を支えるイノベーターとしての当事者意識を生徒が高めるよう指導を改善する必要がある。

次年度の強化事項

- イノベーター人材育成のためのカリキュラム開発とキャリア教育の充実
 - ・育成すべき人材像を産業界と共有するとともに、各学科やコースの教育目標を明確にし、その実現に必要な教育課程を編成・実施する。
 - ・マイスター・ハイスクール事業における各種プログラムを通して、学科やコースの特性に応じた生徒の進路実現を支援する。
- 指定事業終了後を見据えた取組
 - ・イノベーター人材が育成されるよう専門的知識や技術を有する職業人材と教員の役割分担を明確にするとともに、それぞれの教育内容に応じた演習やリモートの活用など、適切な指導方法を検討する。
 - ・バイオ炭を活用した環境に配慮した栽培技術や地域資源を活用した商品開発など、町やJ A、農業改良普及センターなどと持続的な協力関係の構築を図る。

生徒の声

商品開発を進めていく中で、地域や人とのつながりの大切さを学ぶことができました。将来は、商品開発で培ってきた発想力や伝える力を生かせる職業に就きたいです。

様々な地域の農業を知ること、今まで以上に園芸の授業が楽しくなり、探求心が高まりました。学んできた知識を活用し、地域の課題解決に貢献していきたいです。

この一年間を振り返ると多くの方に馬の魅力伝えることができたと感じています。他人の意見を多く取り入れることで、考えの幅が広がり、新しい発見にもつながることができました。来年度は、今までの経験を活かして、多方面から馬の魅力発信に努めていきたいです。

○連携事業

- フランスの農業高校と交流を行う中で、気候に適した栽培方法や食文化の違いについて学ぶことができた。(フランス訪問プロジェクト)
- 3日間の商談会の中で、地域と共に開発した商品の魅力を丁寧に伝えることができた。(静農ブランド開発促進プロジェクト)
- 開発した3D籠を使って、実際に乗馬体験を実施することができた。(北里大学・北海道立総合研究機構・新ひだか町博物館)